

# 大地震が起きたら

- 地震発生時の行動と判断  
(発生から2~3週間まで)
- 避難時の注意点
- びわこ・くさつキャンパスでの注意点

## 状況別行動ガイド

- |                |                |                        |
|----------------|----------------|------------------------|
| → 教室にいるとき      | → 実験室にいるとき     | → 公共交通機関に乗車中のとき        |
| → 廊下にいるとき      | → エレベーター内にいるとき | → 地下街にいるとき             |
| → 運動場や体育館にいるとき | → 家屋内にいるとき     | → キャンパス内(屋外)や路上を歩行中のとき |

## 地震発生時の行動と判断

(発生から2~3週間まで)

### 地震発生～ひとまず揺れがやむ



### 揺れが完全におさまる

- まずすること
- ・火災への対応
- ・応急手当
- ・避難 or 帰宅

帰宅の場合の目安は自宅とキャンパスの距離が20km以内であるかどうか

行動と判断  
大学にいるときは学内放送に従ってください

#### 的確な情報収集

交通機関が動いていない場合

自宅への距離が20km以内

自宅への距離が20kmを超える場合

歩いて自宅へ

避難所へ

ただし、地震の規模、起きた時間、交通機関の状況、経路の安全性、自身の体調や体力によって頭脳応変に決めてください。

#### 帰宅する場合の注意

- 余震がおさまってから帰宅を開始 ※明るいうちに自宅に到着できるように。
- 夜間の行動は避ける。
- 幹線道路を通ること。
- できるだけ同一方向の仲間と帰宅すること。  
【避難所の利用】  
大学内の避難所開設は学内放送等で告知します。食料や飲料水など一定の備蓄品を用意しています。





## 状況別行動ガイド

- 教室にいる時**
- 衣服や持ち物で頭を覆い、落下物から身を守る。
  - 机の下などに身を伏せ、体勢を安定させるために机の脚をおさえる。
  - 余裕があれば、ドア付近にいる人はドアを開け出口を確保。
  - 本棚や窓、モニター等の天井付属物など、落下や破損の危険のあるものから離れる。
- 
- 廊下にいる時**
- 窓が割れたり壁が倒れてくる危険があるので、できれば近くの教室に避難して机の下にもぐる。
  - 近くに教室がない場合は蛍光灯など落下の可能性のあるものや窓のそばから離れ、衣類や持ち物で頭を覆ってかがむ。
- 
- 運動場や体育館にいる時**
- 落下物の危険のない場所に避難し、頭を保護してかがむ。
  - 落下物がない場所ではその場にかがんで揺れがおさまるのを待つ。
- 
- 実験室にいる時**
- 火の始末をし、電気器具などの電源を切る。  
※火の始末が不可能な場合はまず身の安全をはかる。
  - 危険物の取り扱いに注意する。
  - 火災が発生した場合は、揺れがおさまってから消火活動を。初期消火が不可能と判断した場合はすみやかに部屋のドアを閉めて避難する。
- 
- エレベーター内にいる時**
- すべての階のボタンを押し、停止した階で降りる。ちなみに地震時管制装置がついているエレベーターは自動的に最寄りの階に停止する。
  - 途中で停止した場合は非常ボタンもしくはインターホンで外部に救助を求める。
  - 万が一閉じ込められたと判断しても、むやみに脱出口から出るのは危険。落ち着いて救助を待つ。
- 
- 家屋内にいる時**
- 木造住宅の場合は頭部を保護してすばやく外に出るか、倒壊しやすい大きい部屋を避け、柱が多く壁に囲まれた部屋に避難、頑丈な机などの下に身をかくす。
  - 落下や転倒の恐れがある家具、窓際から離れ、テーブルや椅子の下に身を伏せる。
  - すみやかに火の始末をする。ガスの元栓を閉める。電気のブレーカーを落とす。
  - 乳幼児や病人、お年寄りなどの安全を確保する。
  - はだしで歩き回らない。
- 
- 公共交通機関に乘車中の時**
- 急停車に備え、吊り革や手すりにしっかりとつかまる。座っている時は、足をふんばって上体を前かがみに。持ち物で頭を保護する。
  - 途中で止まても勝手に外に出などの行動は慎み、乗務員の指示に従う。  
※線路外に高圧電流が流れている部分があるので、勝手に行動すると危険。
  - 階段やホームにいた場合は転落しないよう姿勢を低くして、固定物につかりながら避難する。

#### 地下街にいる時

- 大きな柱や壁面に身を寄せて揺れがおさまるのを待つ。
- 地下街は比較的安全といわれる。仮に停電してもすぐに非常灯がつくので落ち着いて係員の指示を待つ。
- 万が一火災が発生した場合は煙を吸わないようハンカチを口にあて、姿勢を低くして壁づたいに地上へ避難する。
- 約60mごとに出口があるので冷静に行動を。

#### キャンパス内 (屋外)や路上を 歩行中の時

- ガラスの破片や瓦、看板などの落下物を避けるため頭を衣類や持ち物で保護しながら近くの空き地や頑丈な建物の中などに避難する。
- 木造建築の中、自動販売機やブロック塀のそば、ビルの壁際などへは決して避難しない。
- 切れて垂れ下がった電線には近づかない、さわらない。
- 地面の亀裂・陥没・隆起や、電柱・塀などの転倒に注意する。

## 避難時の注意点

避難する時には余震に注意しながら、周囲の人の安全をおびやかさないように落ち着いて行動する。

- 室内ではガラス等に注意しつつ、壁づたいに歩き、廊下は中央を通る。
- 避難時は必ず階段を使う。エレベーター・エスカレーターは使わない。
- できればまずドアを開ける。負傷者や身障者を優先し、手助けをしながら避難する。
- 誰も残っていないことをしっかり確認し、ドアは開けたままにしておく。ただし火災が発生している場合はその部屋のドアを閉める。

## びわこ・くさつキャンパスでの注意点

理工系の研究室・実験室、X線施設、危険物管理施設、放射線施設、高圧ガス施設などにおいては、次の点について留意をお願いします。

- 燃焼物の種類によって適切な消火器を使用する(平常時より燃焼物の種類によって適切な消火器を把握しておく)。
- ドラフト内の火災は、有毒ガス、煙の発生を伴うなどの特殊な場合を除き、原則として換気を止めて消火する。
- 可燃性ガスボンベからガスが噴出、発火した場合には、まず周囲の可燃物を除去してから注水、消火する。
- 有毒ガス発生の恐れがあったり、煙が多量に発生する場合には、防毒マスクや空気呼吸器などの防護用具を着用し、できるだけ風上側から消火する。
- 火災の大きさ、有毒ガスや煙の発生などの状況によって素人の手に負えないと判断した場合や天井に炎が達し延焼はじめた場合には、すみやかに屋外に退避する。
- 退避にあたっては電源、ガス源などを断ち、危険物などの処理をできるだけする。
- 退避ルート上に危険箇所がある場合には、あらかじめ危険ルートに指定するなど、二次被害の防止に向けた準備をしておく。

※いずれのキャンパスにおいても、緊急自動車(消防車、救急車)が入構してきた場合は進入路をあけるよう心がけてください。